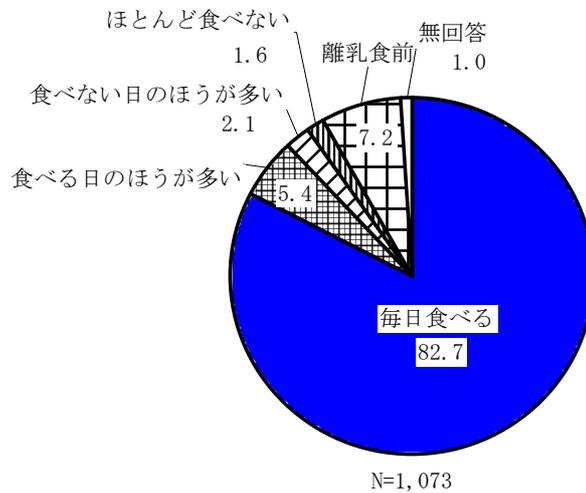


〔6〕子どもの健康などについて

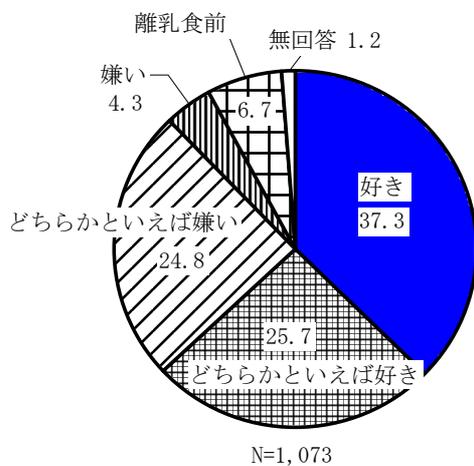
(1) 食生活

問18 お子さんのふだんの食生活についておうかがいします。

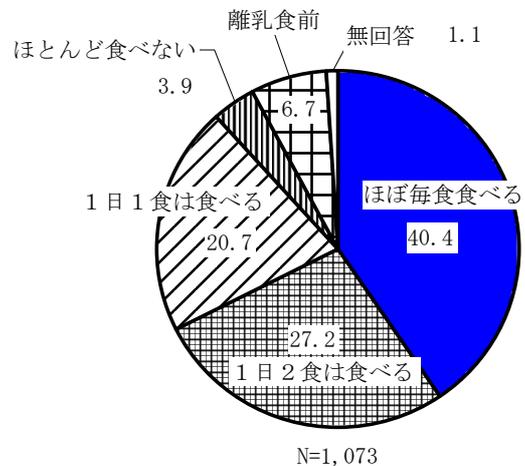
図表 6-1-1 【朝食を食べますか。】



図表 6-1-2 【野菜は好きですか。】



図表 6-1-3 【野菜を食べますか。】



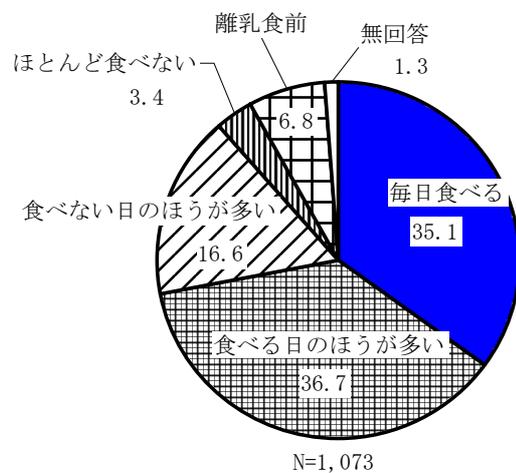
就学前児童の食生活の状況をみると、朝食は「毎日食べる」が82.7%と大部分を占める（図表 6-1-1）。

野菜の好き嫌いは、半数以上が好き（「好き」と「どちらかといえば好き」の合計）に回答しているが、嫌いという児童も回答者の4人に1人を占める（図表 6-1-2）。

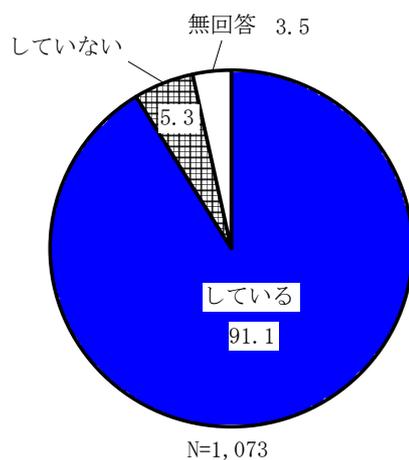
また、野菜の摂食状況は、「ほぼ毎日食べる」が40.4%となっているものの、「1日1食」や「ほとんど食べない」を合わせると、野菜の摂取量が少ない児童もほぼ4人に1人となっている（図表 6-1-3）。

問 1 8 お子さんのふだんの食生活についておうかがいします。

図表 6-1-4 【果物を食べますか。】



図表 6-1-5 【一日一回は家族と一緒に食事をしていますか。】

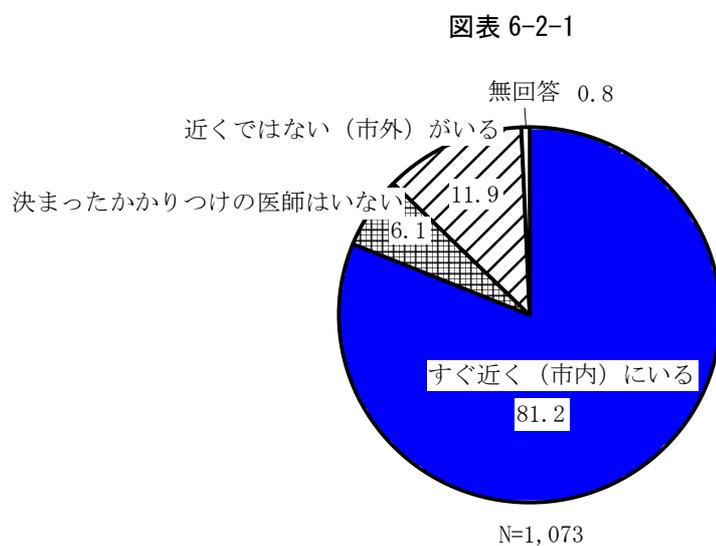


果物の摂食状況は、「毎日食べる」と「食べる日のほうが多い」で全体の7割を超えているが、5人に1人の児童は食べる頻度が少なくなっている（図表 6-1-4）。

一日一回は家族と一緒に食事をするについては、「している」との回答が 91.1%を占めている（図表 6-1-5）。

(2) かかりつけ医の有無

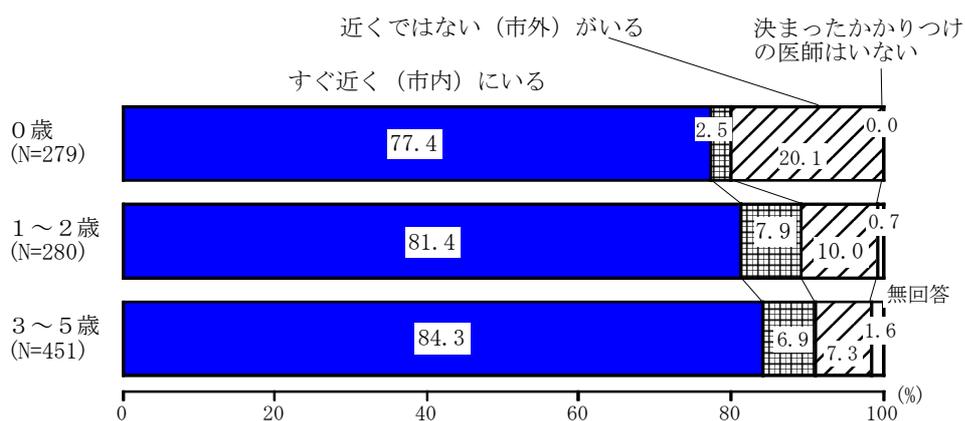
問19 お子さんにはかかりつけの医師はいますか。



かかりつけ医の有無をみると、「すぐ近く（市内）にいる」が全体の 81.2%を占める（図表 6-2-1）。

子どもの年齢別でみると、いずれの年代も 8 割以上はすぐ近くにいると回答し、特に目立った差はみられない（図表 6-2-2）。

図表 6-2-2 かかりつけ医の有無（子どもの年齢別）

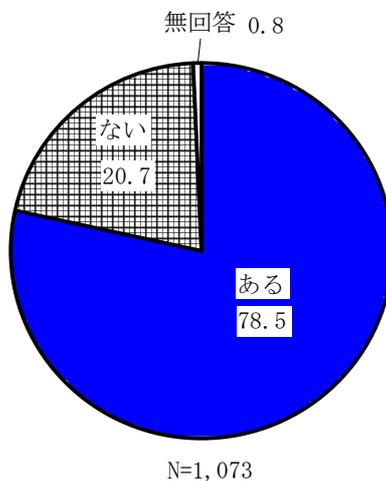


(3) 夜間・休日の急病時、医療機関の必要性を感じた経験

(ア) 必要性を感じた経験の有無

問20 夜間や休日に、お子さんが急病などにより、医療機関の必要性を感じた経験はありますか。

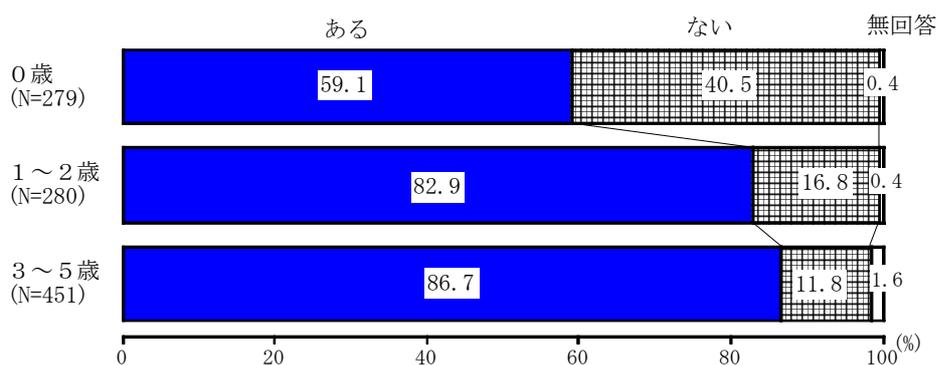
図表 6-3-1



夜間や休日の子どもの急病時における医療機関の必要性は、「ある」と回答した人が全体の78.5%を占める（図表 6-3-1）。

子どもの年齢別では、年齢の上昇に伴い必要性を感じた経験の割合も増加傾向にある（図表 6-3-2）

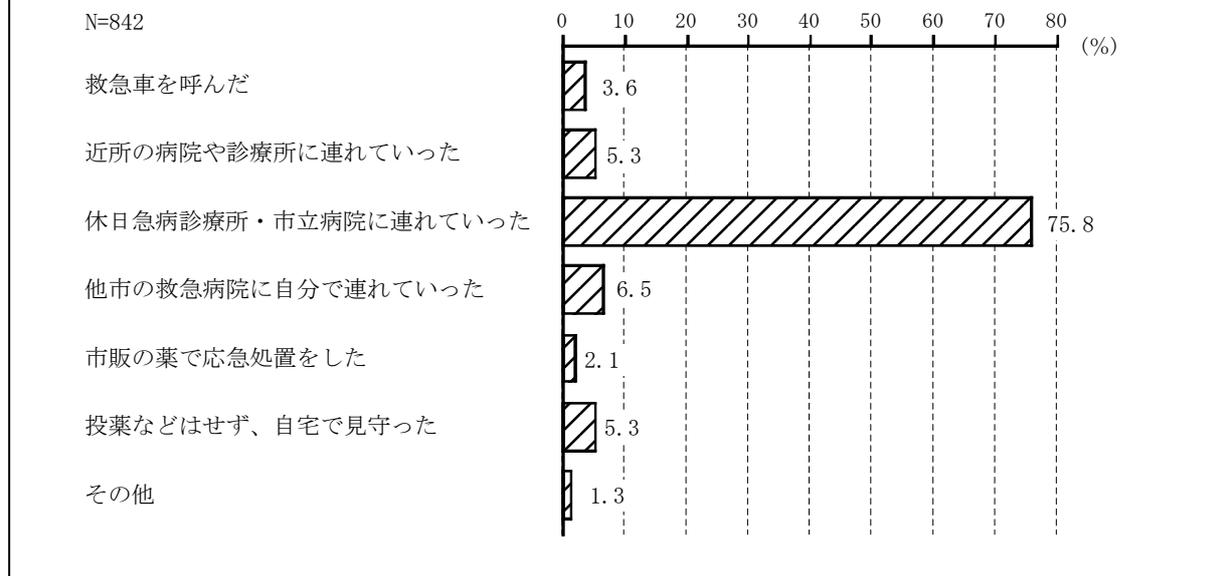
図表 6-3-2 必要性を感じた経験の有無（子どもの年齢別）



(イ) 対応方法

問20-1 その時どのようにしましたか。あてはまるものを1つ選んで○をおつけください。

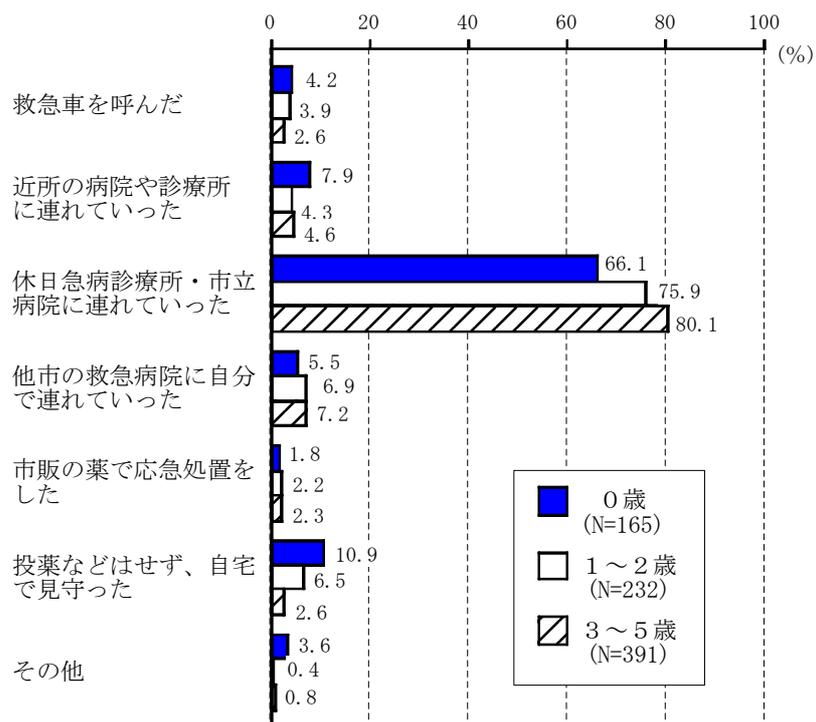
図表 6-3-3



急病時などの対処方法については、「休日急病診療所・市立病院に連れていった」が75.8%で最も多くなっている（図表 6-3-3）。

子どもの年齢別でみると、「休日急病診療所・市立病院に連れていった」は、年齢が高くなるとともに回答率も高くなっている。「投薬などはせず、自宅で見守った」では0歳児が11.6%で他の年齢と比べるとやや高くなっている（図表 6-3-4）。

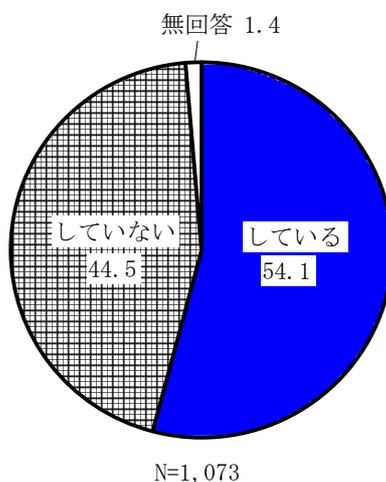
図表 6-3-4 対応方法（子どもの年齢別）



(4) 風呂場での事故予防のための工夫

問2 1 お子さんが風呂場で事故にあわない工夫（水をためないようにするなど）をしていますか。

図表 6-4-1

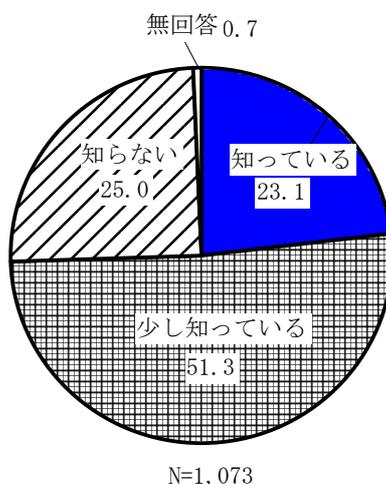


風呂場での事故予防の対策を「している」が54.1%となっているのに対し、「していない」は44.5%でほぼ回答が分かれている（図表 6-4-1）。

(5) 心肺蘇生法の認知状況

問2 2 あなたは、心肺蘇生法（心臓マッサージや人工呼吸）をご存知ですか。

図表 6-5-1



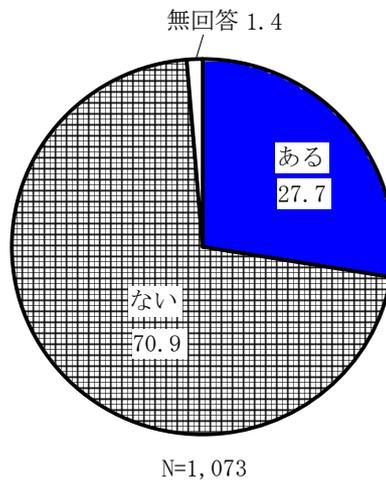
心肺蘇生法を「知っている」と回答した人が23.1%となっている。「少し知っている人」が51.3%で最も多く、4人に1人は「知らない」と回答している（図表 6-5-1）。

(6) 子どもの成長で他の子どもとの違いがあると気になったこと

(ア) 気になったことの有無

問23 お子さんの成長に他のお子さんとの違いがあると気になったことはありますか。

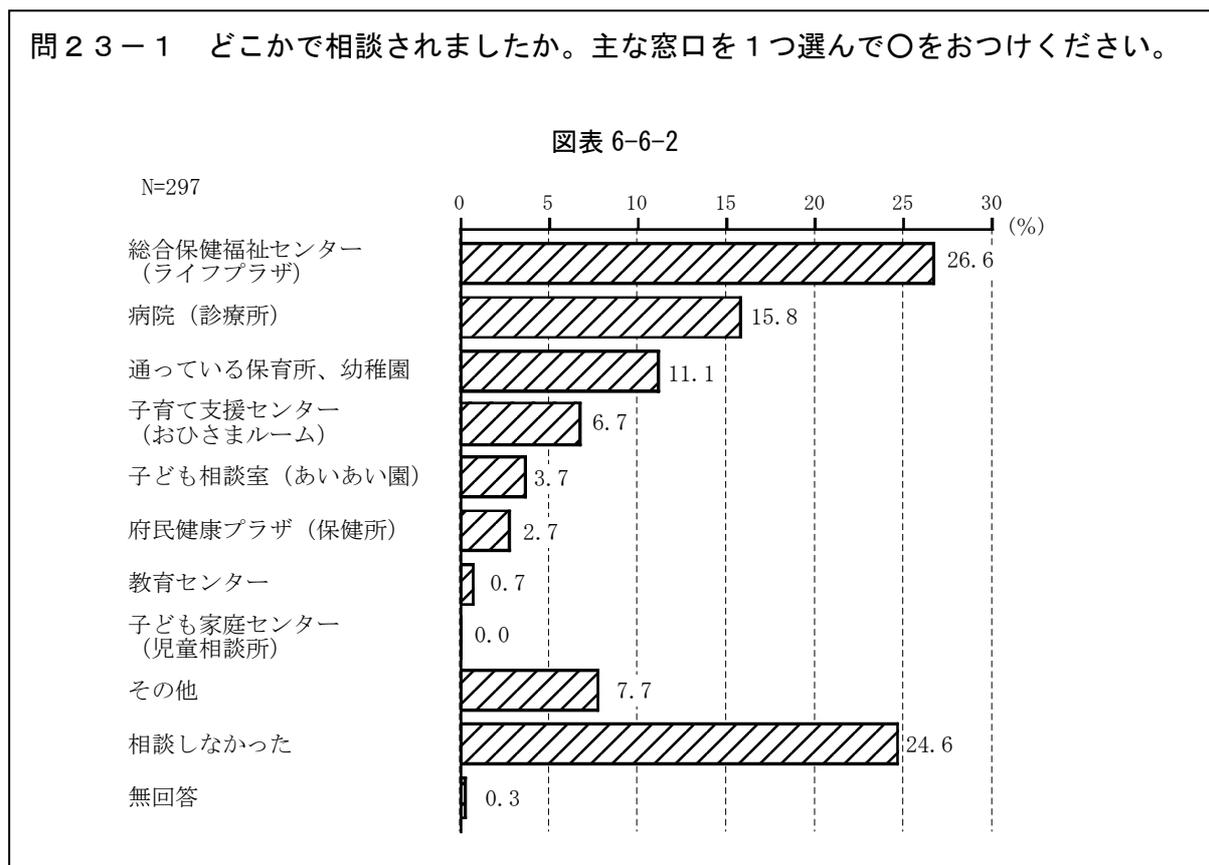
図表 6-6-1



他の子どもとの成長の違いで気になった経験が「ある」と回答した人は27.2%である（図表 6-6-1）。

(イ) その際の相談窓口

問23-1 どこかで相談されましたか。主な窓口を1つ選んで○をおつけください。



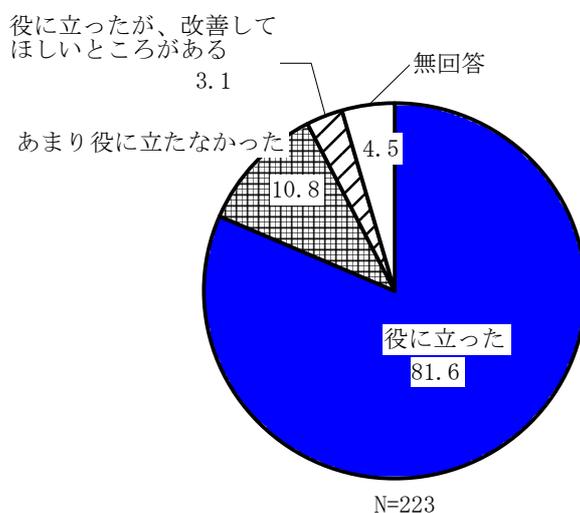
相談先として、「総合保健福祉センター (ライフプラザ)」が 26.6%で最も多く、次いで「病院 (診療所)」(15.8%)、「通っている保育所、幼稚園」(11.1)の順となっている。

一方、「相談しなかった」は 24.6%で、気になったことがあると回答した人の 4人に1人となっている (図表 6-6-2)。

(ウ) 相談機関の対応に対する感想

問 2 3 - 2 相談機関の対応についてどのように感じましたか。

図表 6-6-3



相談機関の対応に対する感想では、「役に立った」と回答した人が相談した人の 81.6% を占める。これに対し「あまり役に立たなかった」は 1 割にとどまっている（図表 6-6-3）。

「あまり役に立たなかった」もしくは「役に立ったが、改善してほしいところがある」の具体的な内容は次のとおりである。

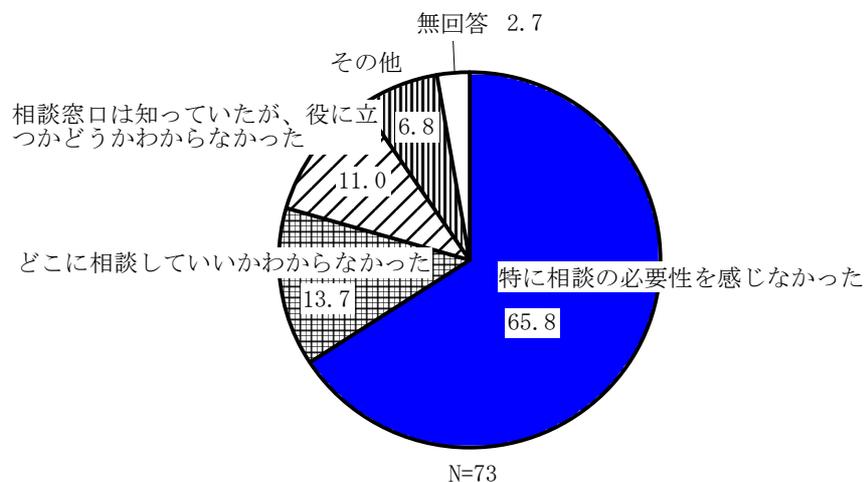
「あまり役に立たなかった」具体的内容	件数
たいして改善・解決しなかった。	4
専門的ではなかった。	3
保健師・医師の対応が悪かった。	3
かえって不安になった。	2
予約が取れなかった。	2
答えがあいまいで具体的なアドバイスがなかった。	2
対応が事務的。	1
一方的に「母親の接し方が悪い」というようなことを言われた。	1
乳児だったので相談や指導の時間帯が昼寝（眠いころ）と重なり、よけいにぐずったり効果がなかった。	1

「役に立ったが、改善して欲しいところがある」具体的内容	件数
対応が事務的。	3
医師の対応が冷たかった。	2
待ち時間が長かった。	1
一方的に家庭の問題にされた。	1

(エ) 相談しなかった理由

問 2 3 - 3 相談しなかった理由は何ですか。

図表 6-6-4



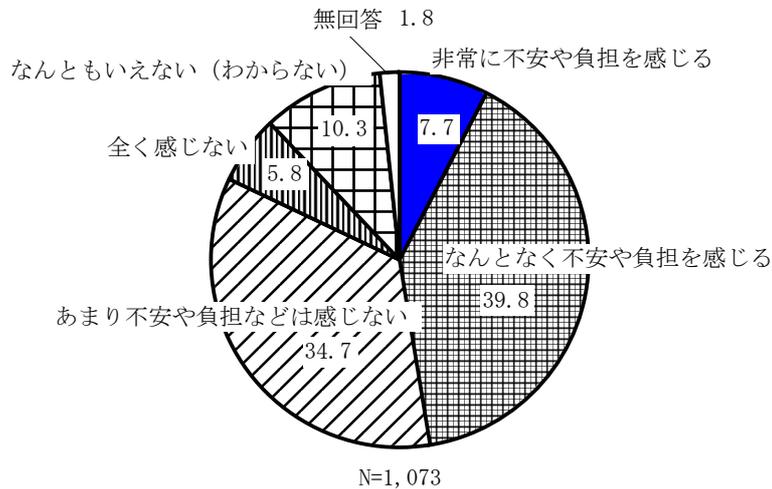
相談しなかった理由は、「特に相談の必要性を感じなかった」が 65.8%で最も多くなっている。一方、「どこに相談していいかわからなかった」、「相談窓口は知っていたが、役に立つかわからなかった」はそれぞれ 1 割台となっている（図表 6-6-4）。

〔7〕子育て全般に対する意識や態度について

(1) 子育てに関する不安感や負担感等の有無

問24 子育てに関して不安感や負担感等はお感じですか。次の中から1つだけ選んで○をおつけください。

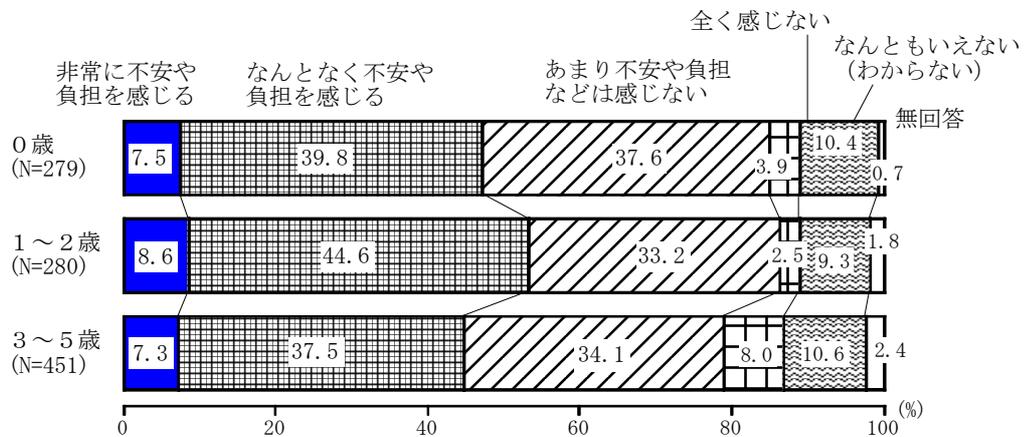
図表 7-1-1



子育てに関する不安感や負担感をみると、「なんとなく不安や負担を感じる」は 39.8%で、「非常に不安や負担を感じる」の 7.7%を加えると、子育てに不安や負担を感じる人が 47.5%とほぼ2人に1人となっている（図 7-1-1）。

子どもの年齢別でみると、1～2歳児が他の年齢に比べて不安や負担を感じている割合がやや高く、不安や負担を感じる人の割合が5割を超える（図表 7-1-2）。

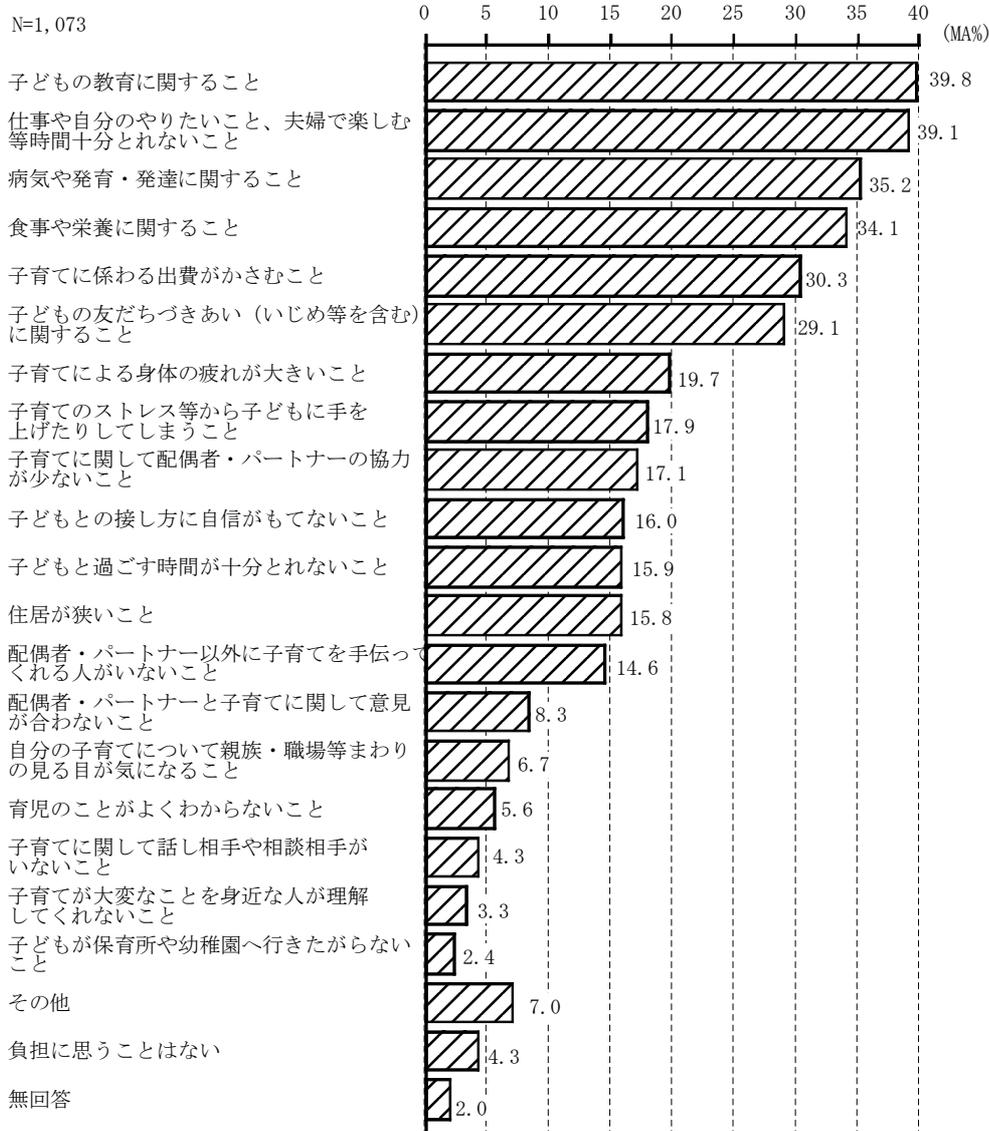
図表 7-1-2 子育てに関する不安感や負担感等の有無（子どもの年齢別）



(2) 子育てに関する悩み・不安の内容

問25 子育てに関して、日常悩んでいること、または、気になることはどのようなことですか。あてはまるものすべてを選んで○をおつけください。

図表 7-2-1

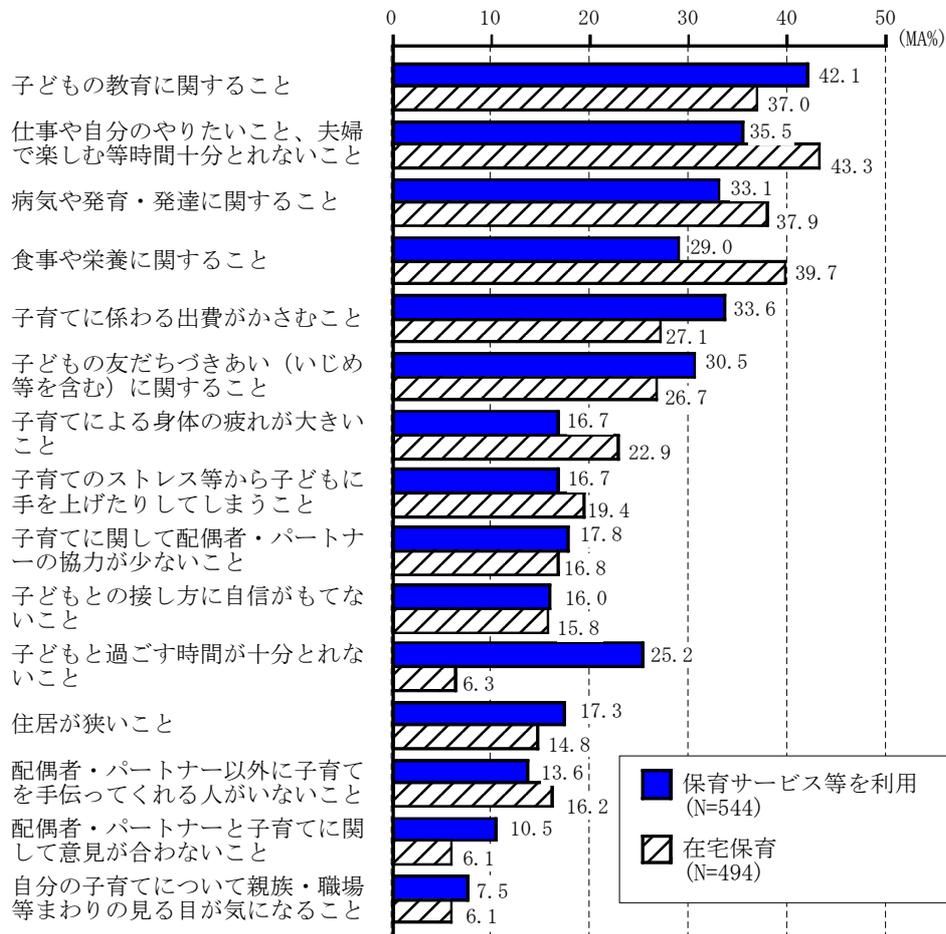


子育てに関する悩みや不安の内容をみると、「子どもの教育に関すること」が39.8%で最も多くなっている。これに次いで「仕事や自分のやりたいこと、夫婦で楽しむことなど自分の時間が十分とれないこと」(39.1%)、「病気や発育・発達に関すること」(35.2%)、「食事や栄養に関すること」(34.1%)が上位を占めている(図表7-2-1)。

保育サービス等の利用有無別に上位15項目をみると、保育サービス等を利用している世帯では「子どもの教育に関すること」が一番多い悩みになっているのに対し、在宅保育の家庭では「仕事や自分のやりたいこと、夫婦で楽しむことなど自分の時間が十分とれないこと」が最も多くなっている(図表7-2-2)。

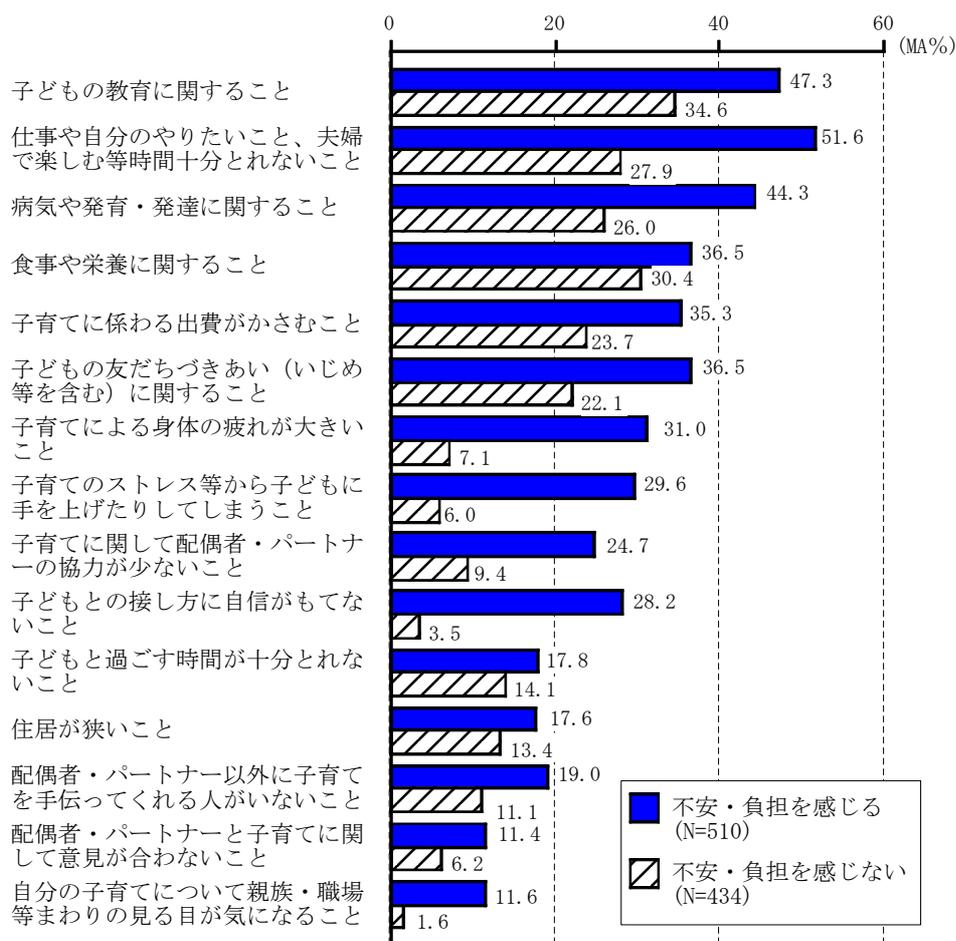
また、在宅保育者では「食事や栄養に関すること」が、保育サービス等を利用する人では「子どもと過ごす時間が十分とれないこと」の各割合も高く、両者の差が大きくなっている（図表 7-2-2）。

図表 7-2-2 子育てに関する悩み・不安の内容（保育サービス利用有無別・上位 15 項目）



子育てに対する負担感の有無別で見ると、子育てに不安・負担を感じている人のほうがそうでない人に比べ、各項目の割合が上回っており、悩みや不安を抱えている様子がうかがえる。特に両者の開きが最も大きいのが「子どもとの接し方に自身がもてないこと」で 24.7ポイントの差がある。加えて、「子育てによる身体の疲れが大きい」、「仕事や自分のやりたいこと、夫婦で楽しむことなど自分の時間が十分にとれないこと」等も不安・負担を感じている人の割合が高くなっている（図表 7-2-3）。

図表 7-2-3 子育てに関する悩み・不安の内容（子育てに対する負担感の有無別・上位 15 項目）

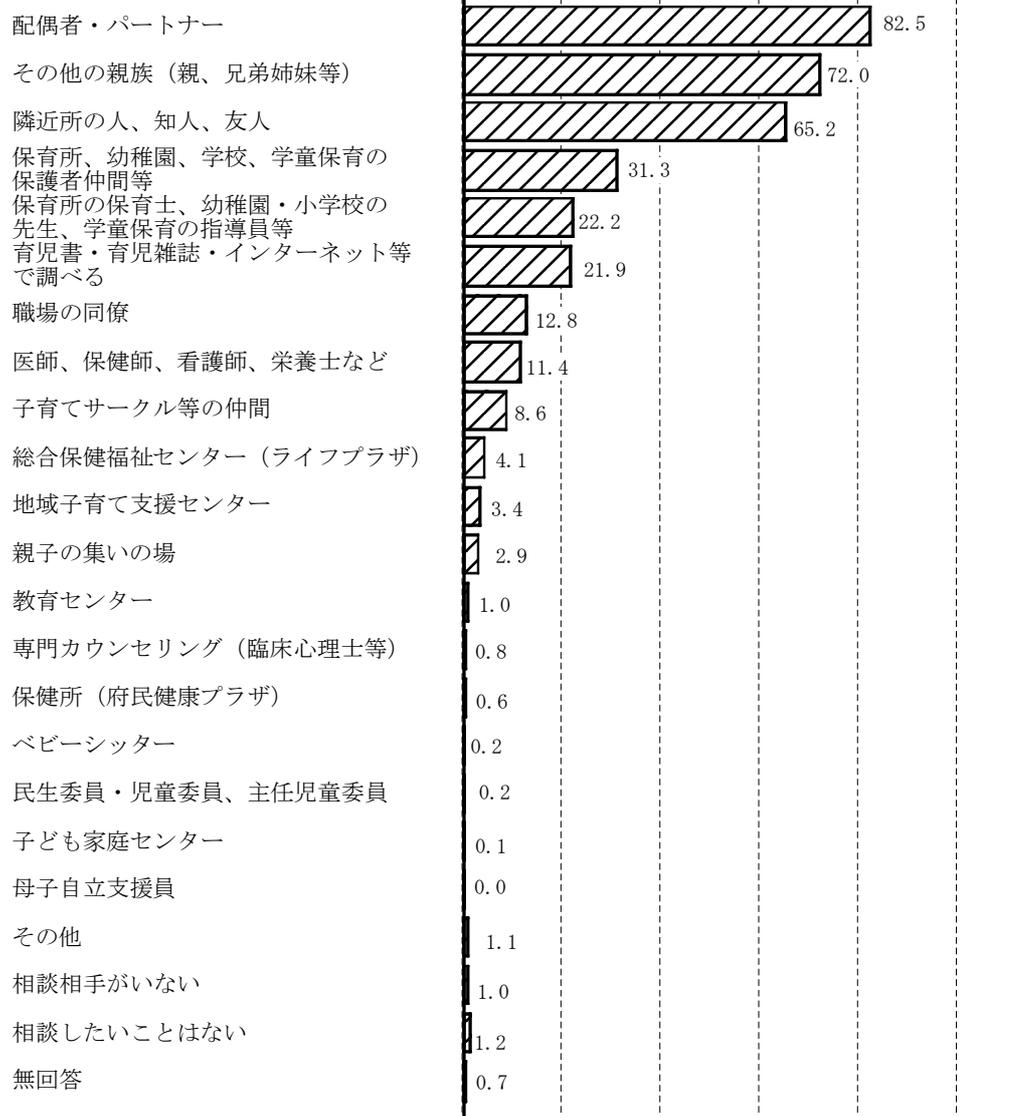


(3) 子育てに関する悩み・不安の相談相手

問 2 6 身近な地域で、子育てに関する悩みや不安をどなたに相談していらっしゃいますか。あてはまるものすべてを選んで○をおつけください。

図表 7-3-1

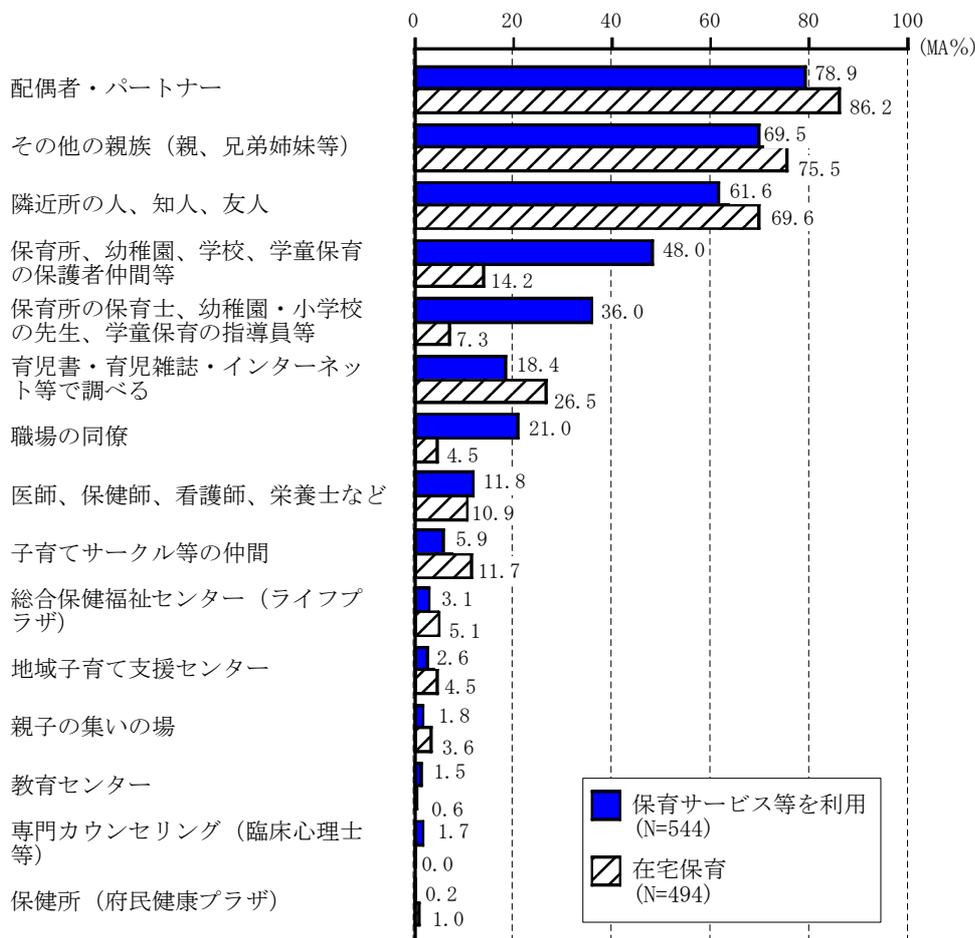
N=1,073



悩みや不安の相談先は、「配偶者・パートナー」（82.5%）で最も多く、次いで、「その他の親族（親、兄弟姉妹等）」（72.0%）、「隣近所の人、知人、友人」（65.2%）など、いわゆる“口こみ”が上位を占める。地域子育て支援センターや民生委員・児童委員など地域に密着した相談窓口の利用率はかなり低い（図表 7-3-1）

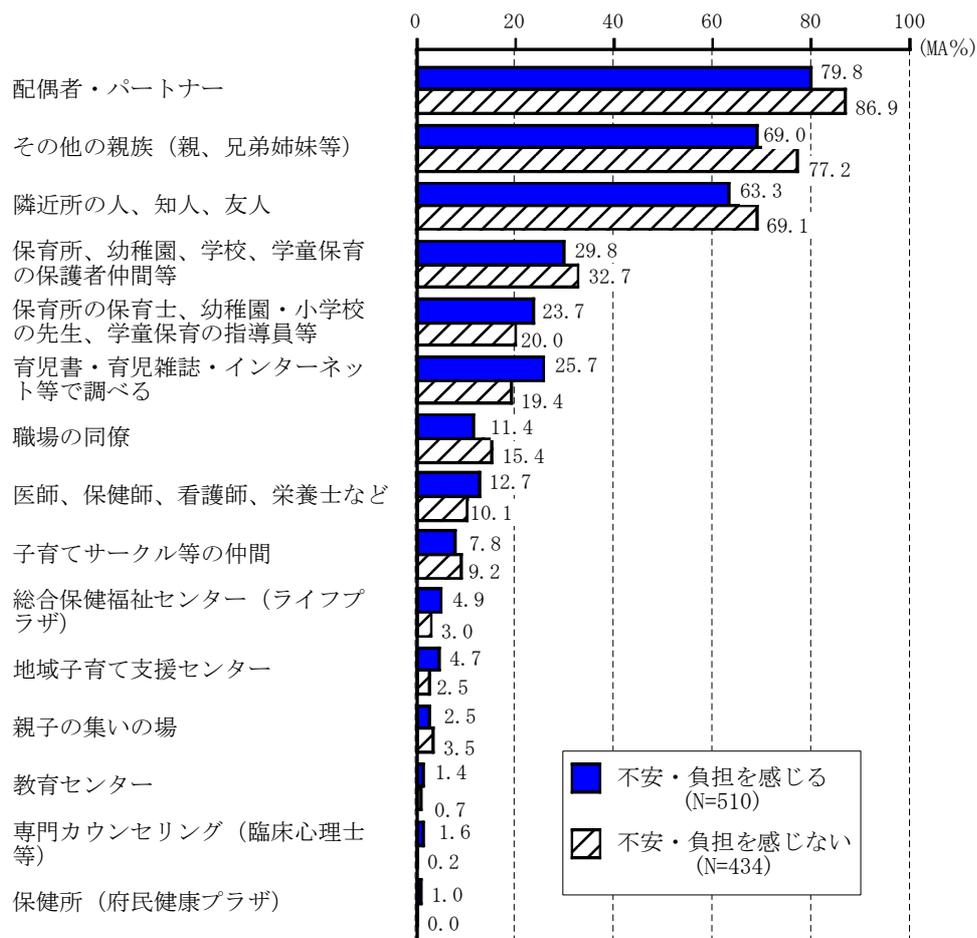
保育サービス等の利用有無別でみると、保育サービス等を利用している人は利用施設の保護者仲間や先生へ相談するケースが配偶者や他の家族に次いで多くなっているのに対して、在宅保育の人はインターネット、雑誌などの媒体に頼るケースが高くなっている（図表 7-3-2）

図表 7-3-2 子育てに関する悩み・不安の相談相手（保育サービス利用有無別・上位 15 項目）



子育てに対する負担感の有無別でみると、不安・負担を感じていない人は感じている人に比べ配偶者や他の親族、知人・友人への回答が高くなっている。不安・負担を感じている人は、そうでない人に比べ育児書や育児雑誌、インターネットの割合がやや高い（図表 7-3-3）。

図表 7-3-3 子育てに関する悩み・不安の相談相手（子育てに対する負担感の有無別・上位 15 項目）

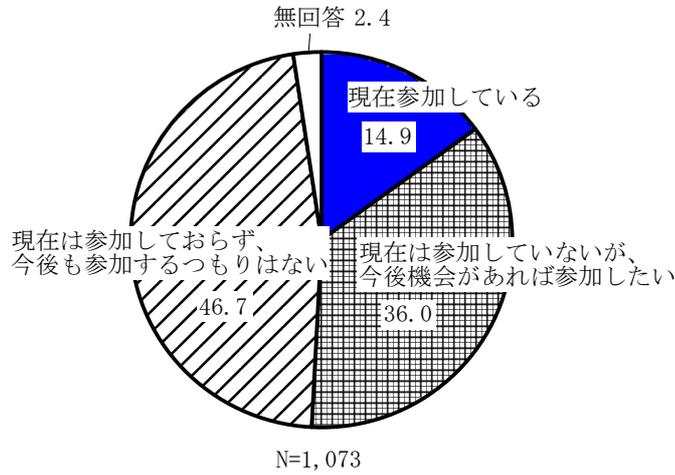


(4) 子育てに関する自主的活動への参加状況

(ア) 参加状況 (意向)

問 2 7 あなたは子育てに関するサークルなど自主的活動に参加していますか。

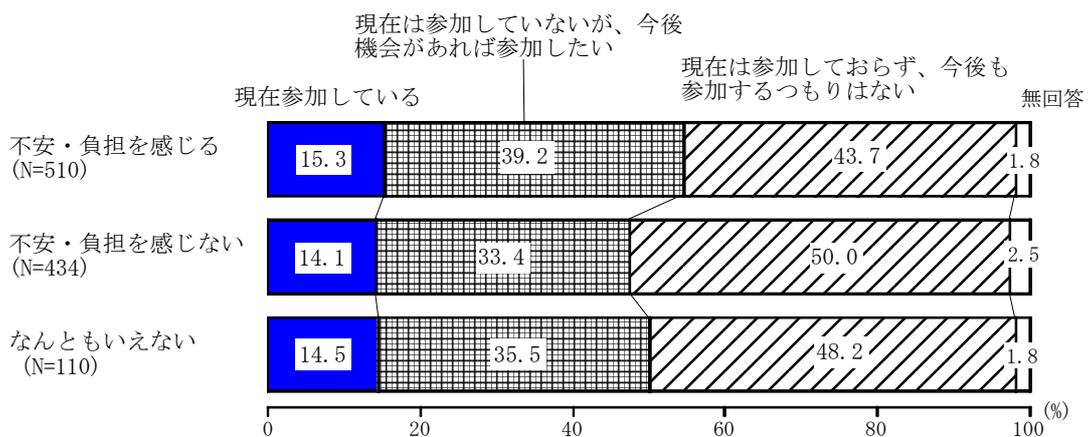
図表 7-4-1



サークルの参加状況では、「現在は参加しておらず、今後も参加するつもりはない」の回答が46.7%で半数近くに上っている。一方、「現在参加している」人は14.9%である(図表7-4-1)。

子育てに対する不安や負担感の有無によりサークル活動の状況については目立った差はみられない(図表7-4-2)。

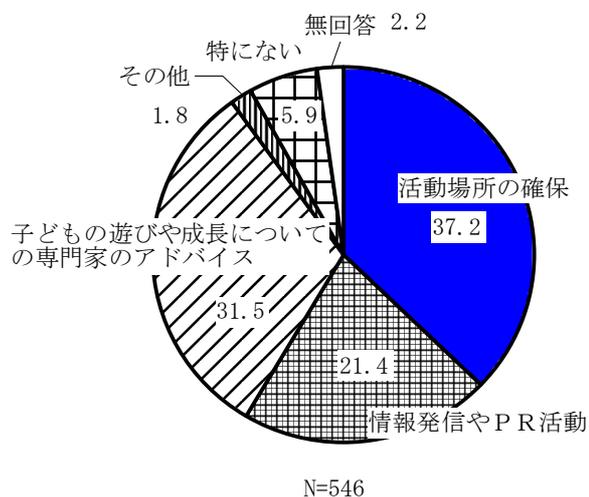
図表 7-4-2 子育てに関する自主的活動への参加状況・意向 (子育てに対する負担感の有無別)



(イ) 自主活動を行うにあたって必要なこと

問 2 7 - 1 自主活動をしていくにあたって、必要だと思われることはどのようなものですか。あてはまるものを1つだけ選んで○をおつけください。

図表 7-4-3



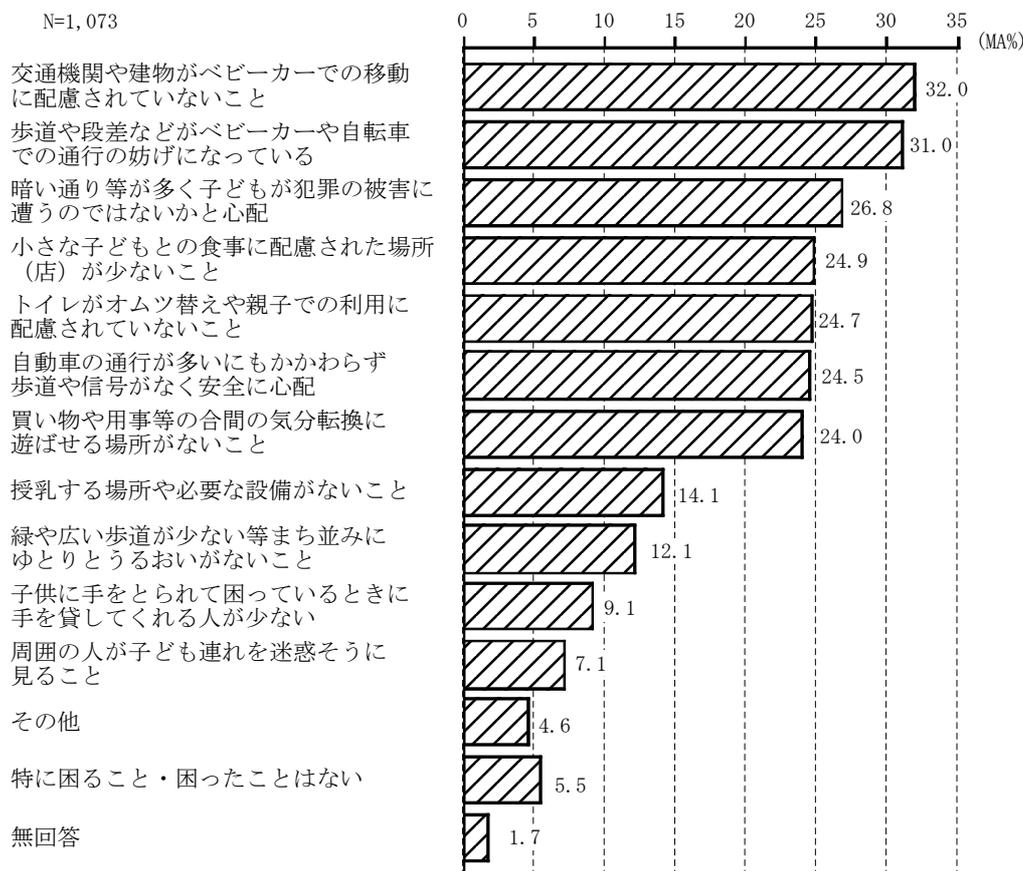
自主活動を行うにあたって必要なことは、「活動場所の確保」が 37.2%で最も高くなっている。「子どもの遊びや成長についての専門家のアドバイス」、「情報発信やPR活動」もそれぞれ 2, 3 割の回答率となっている (図表 7-4-3)

## 〔8〕生活環境について

### (1) 外出の際、困る（困った）こと

問28 お子さんと外出する際、困ること・困ったことは何ですか。あてはまるものを3つまで選んで○をおつけください。

図表 8-1-1



外出の際に困る（困った）ことでは、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと」（32.0%）が最も多くなっている。次いで「歩道の段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっていること」（31.0%）が僅差で第2位となっている。これに「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配なこと」（26.8%）、「小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ないこと」（24.9%）が上位を占めている（図表 8-1-1）。

小学校区別に困ることの上位5項目をまとめたものが図表 8-1-2 である。

図表 8-1-2 外出の際、困る（困った）こと（小学校区別・上位5項目）

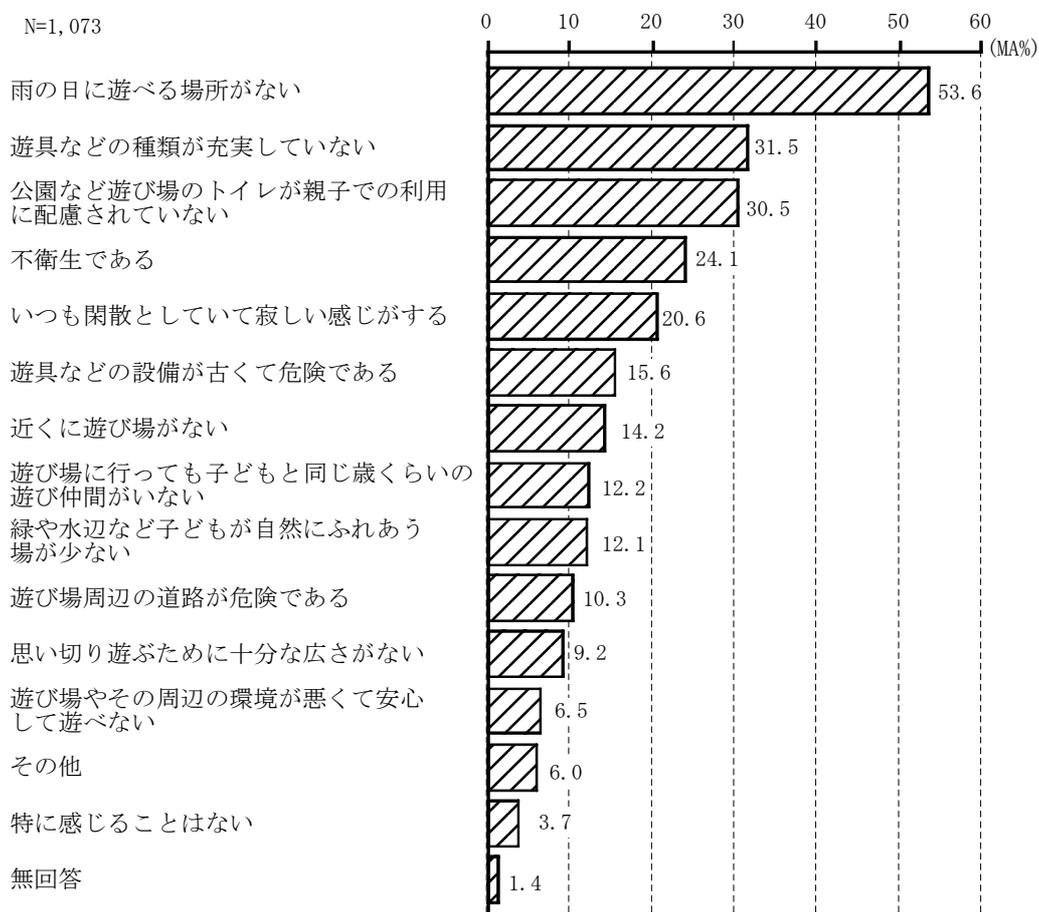
(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
箕面小学校区 (N=67)	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 34.3	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 32.8	小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ないこと 28.4	買い物や用事等の合間の気分転換に遊ばせる場所がないこと 28.4	トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと 26.9
止々呂美小学校区 (N=2)	トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと 100.0	小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ないこと 50.0	買い物や用事等の合間の気分転換に遊ばせる場所がないこと 50.0		
萱野小学校区 (N=95)	暗い通り等が多く子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配 33.7	自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がなく安全に心配 31.6	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 29.5	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 27.4	小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ないこと 25.3
北小学校区 (N=35)	自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がなく安全に心配 37.1	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 31.4	小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ないこと 31.4	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 25.7	買い物や用事等の合間の気分転換に遊ばせる場所がないこと 25.7
南小学校区 (N=72)	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 50.0	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 33.3	トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと 30.6	暗い通り等が多く子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配 26.4	緑や広い歩道が少ない等まち並みにゆとりとうるおいが少ないこと 23.6
西小学校区 (N=130)	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 36.9	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 33.1	トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと 31.5	小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ないこと 28.5	買い物や用事等の合間の気分転換に遊ばせる場所がないこと 26.2
東小学校区 (N=107)	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 33.6	トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと 28.0	暗い通り等が多く子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配 28.0	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 27.1	小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ないこと 25.2
西南小学校区 (N=93)	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 38.7	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 32.3	自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がなく安全に心配 28.0	暗い通り等が多く子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配 24.7	トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと 21.5
萱野東小学校区 (N=90)	自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がなく安全に心配 34.4	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 31.1	暗い通り等が多く子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配 28.9	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 26.7	小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ないこと 26.7
豊川北小学校区 (N=80)	暗い通り等が多く子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配 33.8	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 30.0	買い物や用事等の合間の気分転換に遊ばせる場所がないこと 28.8	自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がなく安全に心配 23.8	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 23.8
中小学校区 (N=91)	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 36.3	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 35.2	暗い通り等が多く子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配 30.8	買い物や用事等の合間の気分転換に遊ばせる場所がないこと 24.2	自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がなく安全に心配 23.1
豊川南小学校区 (N=125)	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 30.4	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 30.4	小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ないこと 28.8	暗い通り等が多く子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配 25.6	自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がなく安全に心配 24.0
萱野北小学校区 (N=59)	買い物や用事等の合間の気分転換に遊ばせる場所がないこと 30.5	暗い通り等が多く子どもが犯罪の被害に遭うのではないかと心配 27.1	自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がなく安全に心配 25.4	交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと 22.0	歩道や段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている 20.3

(2) 地域の子どもの遊び場に対する感想

問29 地域の子どもの遊び場について、日ごろ感じていることはありますか。あてはまるものを3つまで選んで○をおつけください。

図表 8-2-1



子どもの遊び場に対する感想では、「雨の日に遊べる場所がない」が53.6%で最も多くなっている。これに次いで、「遊具などの種類が充実していない」「公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない」もそれぞれ3割台の回答率となっている（図表8-2-1）。

小学校区別できると、いずれの校区も「雨の日に遊べる場所がない」が最も多くなっている（図表8-2-2）。

図表 8-2-2 地域の子どもの遊び場に対する感想（小学校区別・上位5項目）

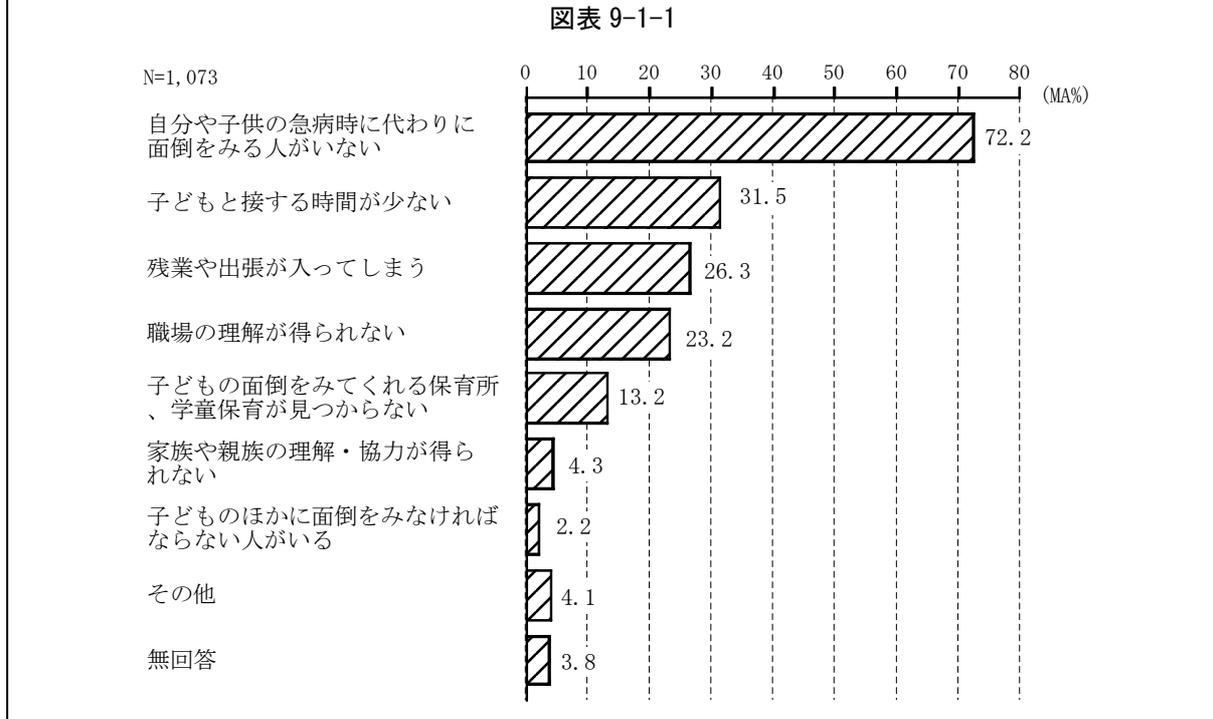
(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
箕面小学校区 (N=67)	雨の日に遊べる場所がない 62.7	遊具などの種類が充実していない 32.8	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 31.3	不衛生である 23.9	いつも閑散としていて寂しい感じがする／遊具などの設備が古くて危険である 16.4
止々呂美小学校区 (N=2)	近くに遊び場がない 100.0	雨の日に遊べる場所がない 50.0			
萱野小学校区 (N=95)	雨の日に遊べる場所がない 42.1	遊具などの種類が充実していない 33.7	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 31.6	不衛生である 25.3	遊具などの設備が古くて危険である 23.2
北小学校区 (N=35)	雨の日に遊べる場所がない 45.7	近くに遊び場がない 25.7	遊具などの種類が充実していない 25.7	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 25.7	不衛生である 20.0
南小学校区 (N=72)	雨の日に遊べる場所がない 62.5	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 41.7	不衛生である 30.6	遊具などの種類が充実していない 26.4	いつも閑散としていて寂しい感じがする 20.8
西小学校区 (N=130)	雨の日に遊べる場所がない 67.7	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 43.1	不衛生である 21.5	遊具などの設備が古くて危険である 17.7	いつも閑散としていて寂しい感じがする 16.9
東小学校区 (N=107)	雨の日に遊べる場所がない 53.3	遊具などの種類が充実していない 34.6	いつも閑散としていて寂しい感じがする 26.2	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 24.3	不衛生である 20.6
西南小学校区 (N=93)	雨の日に遊べる場所がない 40.9	遊具などの種類が充実していない 32.3	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 30.1	遊具などの設備が古くて危険である 24.7	いつも閑散としていて寂しい感じがする 21.5
萱野東小学校区 (N=90)	雨の日に遊べる場所がない 48.9	遊具などの種類が充実していない 37.8	いつも閑散としていて寂しい感じがする 32.2	不衛生である 27.8	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 20.0
豊川北小学校区 (N=80)	雨の日に遊べる場所がない 50.0	遊具などの種類が充実していない 40.0	不衛生である 33.8	いつも閑散としていて寂しい感じがする 25.0	近くに遊び場がない 20.0
中小学校区 (N=91)	雨の日に遊べる場所がない 45.1	遊具などの種類が充実していない 34.1	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 30.8	不衛生である 27.5	遊具などの設備が古くて危険である 22.0
豊川南小学校区 (N=125)	雨の日に遊べる場所がない 62.4	遊具などの種類が充実していない 36.0	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 32.8	不衛生である 23.2	緑や水辺など子どもが自然にふれあう場が少ない 21.6
萱野北小学校区 (N=59)	雨の日に遊べる場所がない 55.9	公園など遊び場のトイレが親子での利用に配慮されていない 33.9	遊具などの種類が充実していない 28.8	近くに遊び場がない 23.7	いつも閑散としていて寂しい感じがする 22.0

〔9〕仕事と家庭との両立支援について

(1) 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること

問30 一般に保育の必要な子どもがいる家庭の方が仕事をしようとする場合に、仕事と子育てを両立させる上で大変だ、または大変だろうと感じることは何ですか。自分の意見に最も近いものを2つまで選んで○をおつけください。



仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることでは、「子どもや自分が病気・けがをしたときに代わりに子どもの面倒をみる人がいない」(72.2%)が最も多くなっている。次いで「子どもと接する時間が少ない」(31.5%)、「残業や出張が入ってしまう」(26.3%)の順となっている(図表9-1-1)。

就労状況別でみると、就労状況に関わりなく「子どもや自分が病気・けがをしたときに代わりに子どもの面倒をみる人がいない」が最も高くなっている。母親のみ就労している家庭では「残業や出張が入ってしまう」(60.0%)の割合も高くなっている(図表9-1-2)。

図表 9-1-2 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること (就労状況別)

(MA%)

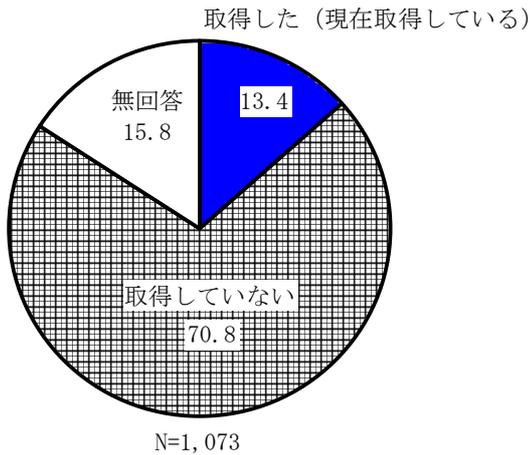
	N	残業や出張が入ってしまう	子どもや自分が病気・けがをしたときに代わりに面倒をみる人がいない	自分や子供の急病時に代わりに面倒をみる人がいない	家族や親族の理解・協力が得られない	職場の理解が得られない	子どものほかに面倒をみなければならない人がいる	子どもの面倒をみってくれる保育所、学童保育が見つからない	子どもと接する時間が少ない	その他	無回答
母親のみ就労	10	60.0	70.0	10.0	20.0	-	-	40.0	-	-	
父親のみ就労	725	20.8	74.1	5.5	25.0	2.3	15.4	31.6	3.9	3.7	
共働き	257	36.6	70.4	1.6	19.5	1.6	9.3	30.0	5.8	3.1	
その他	9	55.6	77.8	-	11.1	-	11.1	11.1	-	11.1	

(2) 育児休業制度の取得状況（取得予定）

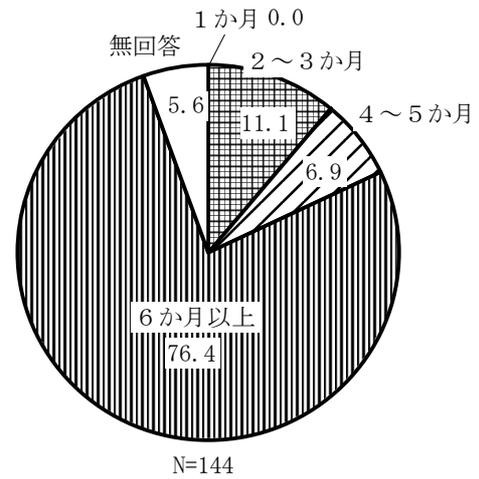
(ア) 取得状況（期間）

問3 1 調査対象のお子さんが生まれた時、育児休業の取得状況と、取得した（している）場合は取得（予定）期間、取得していない場合はその理由についてお答えください。母親、父親それぞれについてご記入ください。

図表 9-2-1 【母親の取得状況】



図表 9-2-2 【母親の取得期間】



【父親の取得状況】

回答者 1,073 人中、「取得した（現在取得している）」0.1%、「取得していない」86.6%、取得者の取得期間不明（無回答）

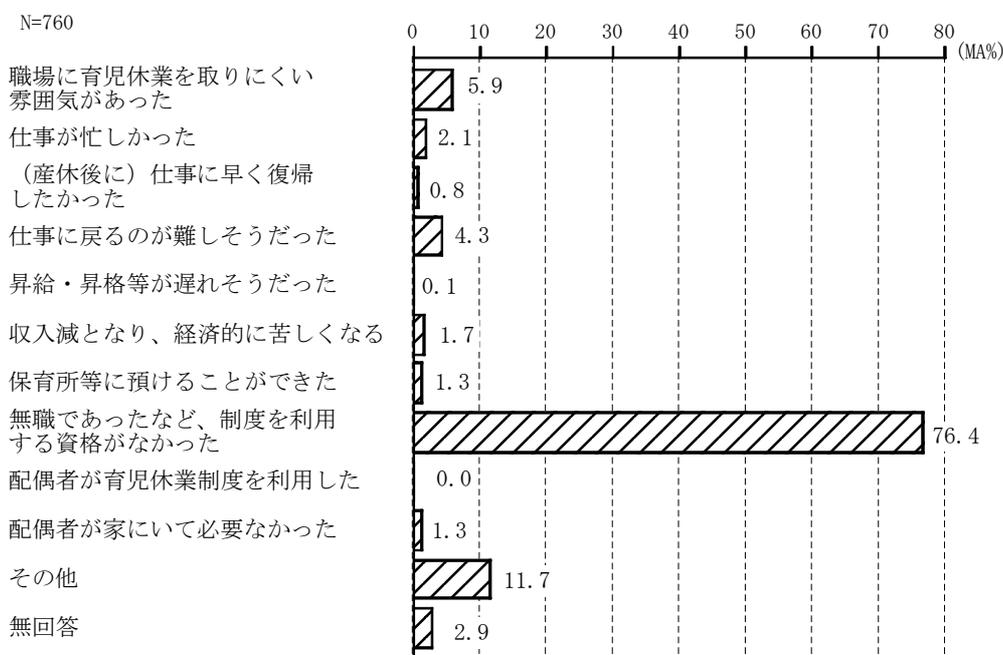
育児休業の取得状況について、母親の場合をみると、「取得した（現在取得している）」人は13.4%に対して「取得していない」と回答した人は70.8%に上っている（図表 9-2-1）。

取得期間は、「6か月以上」（76.4%）が一番多く、次いで「2～3か月」、「4～5か月」の順となっている（図表 9-2-2）。

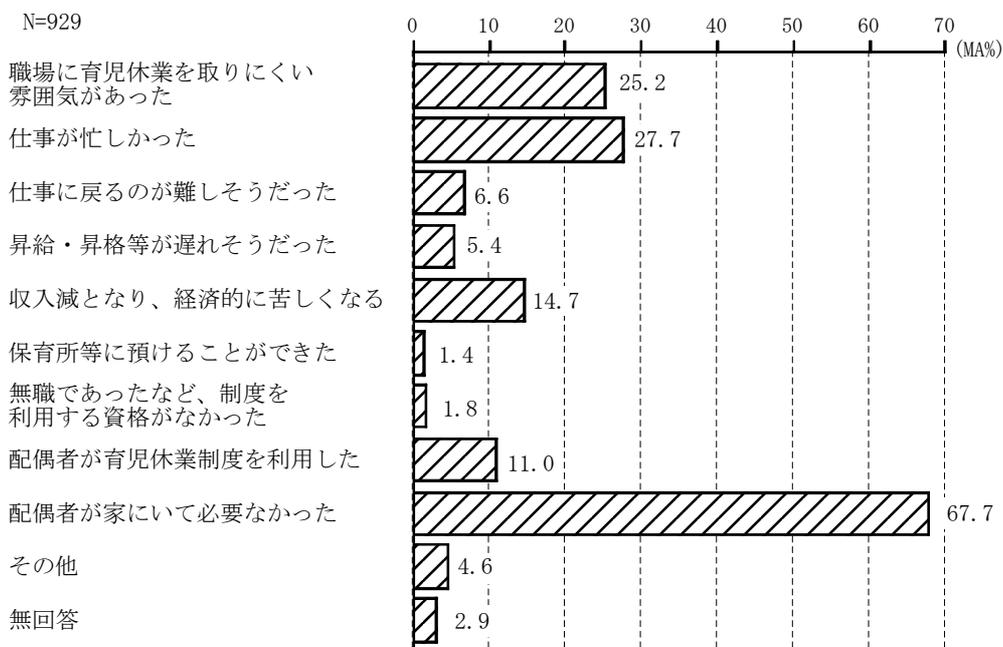
(イ) 取得していない理由

問3 1 調査対象のお子さんが生まれた時、育児休業の取得状況と、取得した(している)場合は取得(予定)期間、取得していない場合はその理由についてお答えください。母親、父親それぞれについてご記入ください。

図表 9-2-3 【母親の取得していない理由】



図表 9-2-4 【父親の取得していない理由】

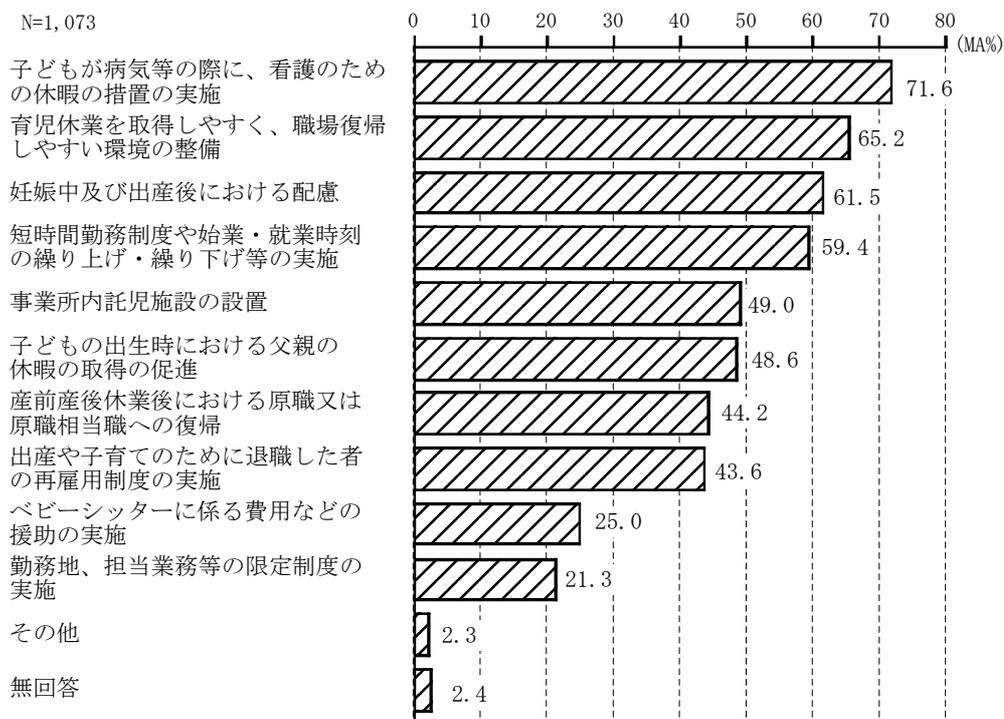


母親が育児休業を取得しなかった理由は、「無職であったなど制度を利用する資格がなかった」(76.4%)、父親は「配偶者が家において必要なかった」(67.7%)がそれぞれ最も多い(図表 9-2-3、9-2-4)

(3) 仕事と子育ての両立支援のために職場に求めること

問3 2 男女が共に仕事と子育てを両立するために、職場環境に求めることについて、あてはまるものすべてを選んで○をおつけください。(現在、働いていない場合も、必要だと思われるものをお答えください。)

図表 9-3-1



仕事と子育ての両立支援のために職場に求めることでは、「子どもが病気等の際に、看護のための休暇の措置の実施」(71.6%)が最も多くなっている。次いで、「育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい環境整備」(65.2%)、「妊娠中及び出産後における配慮」(61.5%)、「短時間勤務制度や始業・就業時刻の繰り上げ・繰り下げ、フレックスタイム制等の実施」(59.4%)が上位を占めている(図9-3-1)。

就労状況別で見ると、いずれの形態も「子どもが病気等の際に、看護のための休暇の措置の実施」が最も高い回答となっている(図表9-3-2)。

図表 9-3-2 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること（就労状況別）

(MA%)

	N	妊娠中及び出産後における配慮	産前産後休業後における原職又は原職相当職への復帰	産前産後休業後における原職又は原職相当職への復帰	子どもの出生時における父親の休暇の取得の促進	育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい環境の整備	短時間勤務制度や始業・就業時刻の繰り上げ・繰り下げ等の実施	事業所内託児施設の設定	ベビーシッターに係る費用などの援助の実施	子どもが病気等の際に、看護のための休暇の措置の実施	勤務地、担当業務等の限定制度の実施	出産や子育てのために退職した者の再雇用制度の実施	その他	無回答
母親のみ就労	10	70.0	70.0	90.0	70.0	60.0	50.0	20.0	90.0	20.0	40.0	-	-	
父親のみ就労	725	62.3	42.5	48.6	66.6	57.2	49.8	24.1	71.6	21.0	44.3	2.2	2.6	
共働き	257	61.5	48.6	51.8	62.3	64.6	45.1	29.2	72.8	21.8	41.6	2.3	1.2	
その他	9	55.6	33.3	33.3	66.7	33.3	55.6	44.4	66.7	44.4	44.4	22.2	11.1	

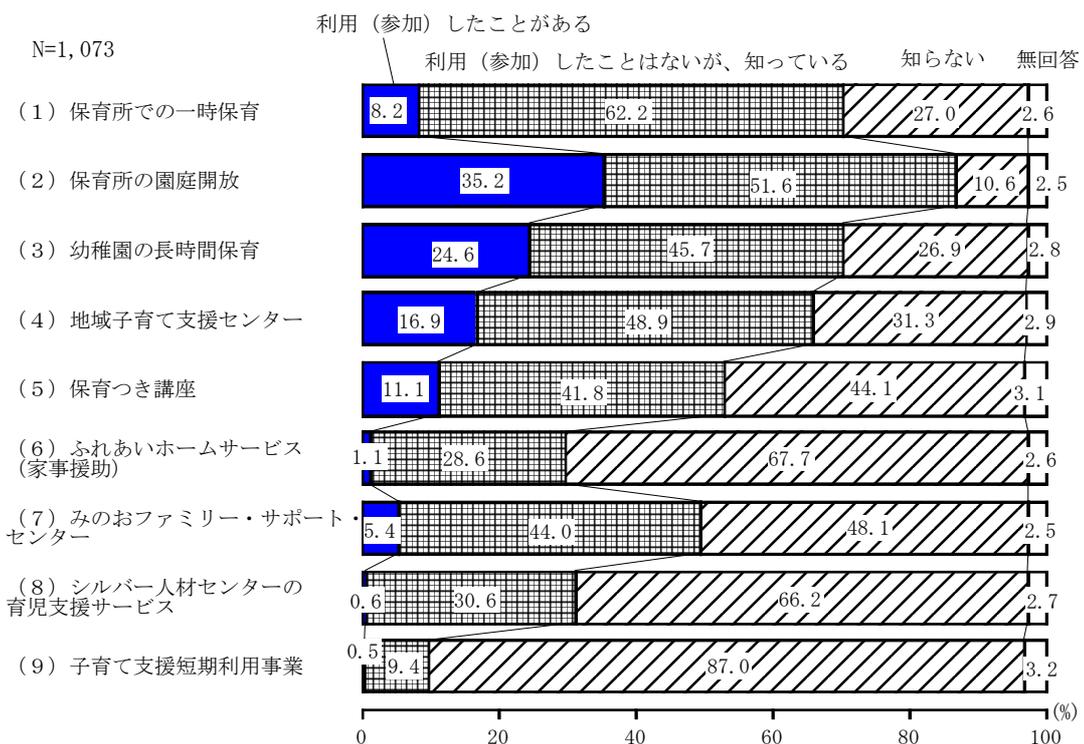
〔10〕子育て支援施策について

(1) 子育て支援サービスの認知度・利用状況

(ア) 保育サービス等

問 3 3 次の子育てに関する機関や、サービスを知っていたり、これまでに利用したことはありますか。また、今後、利用したいと思いますか。それぞれあてはまるものを1つ選んで○をおつけください。

図表 10-1-1 【保育サービス等の認知度・利用度】

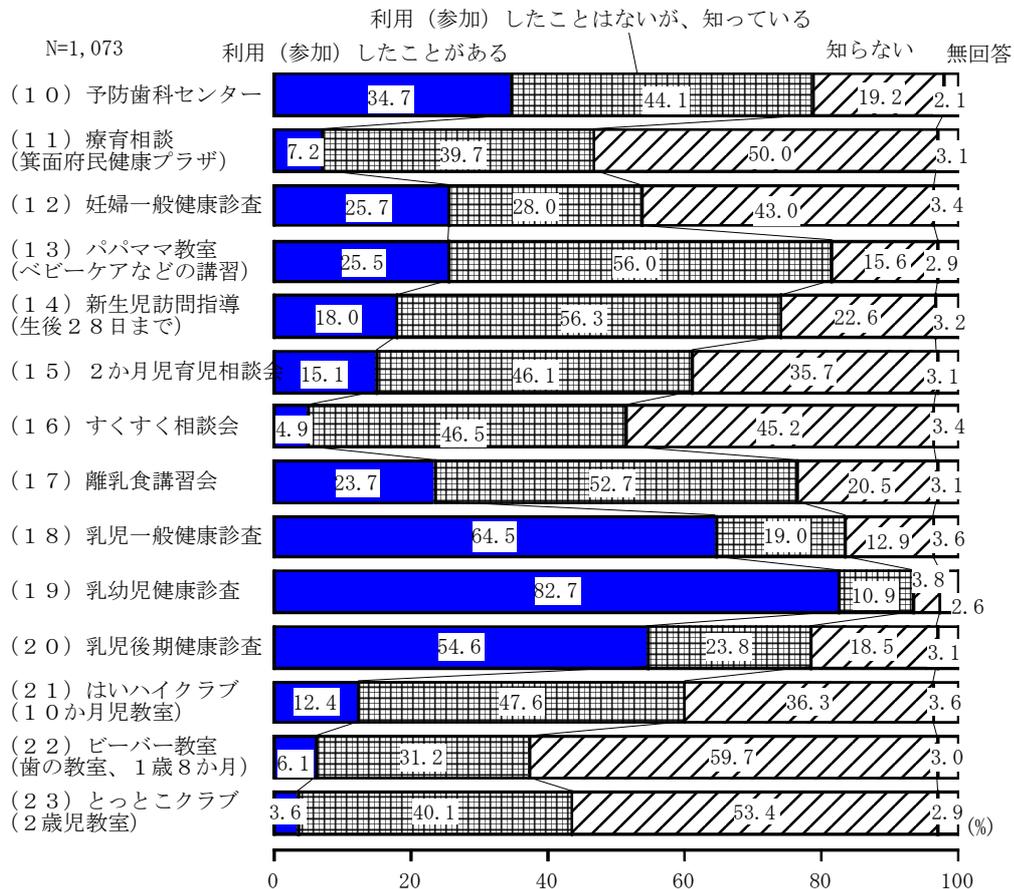


保育サービス等の認知度・利用状況で利用度・認知度が最も高いのが「保育所の園庭開放」で、その他にも「保育所での一時保育」、「幼稚園の長時間保育」等が上位を占めている（図表 10-1-1）。

(イ) 母子保健サービス

問33 次の子育てに関する機関や、サービスを知っていたり、これまでに利用したことはありますか。また、今後、利用したいと思いますか。それぞれあてはまるものを1つ選んで○をおつけください。

図表 10-1-2 【母子保健サービスの認知度・利用度】



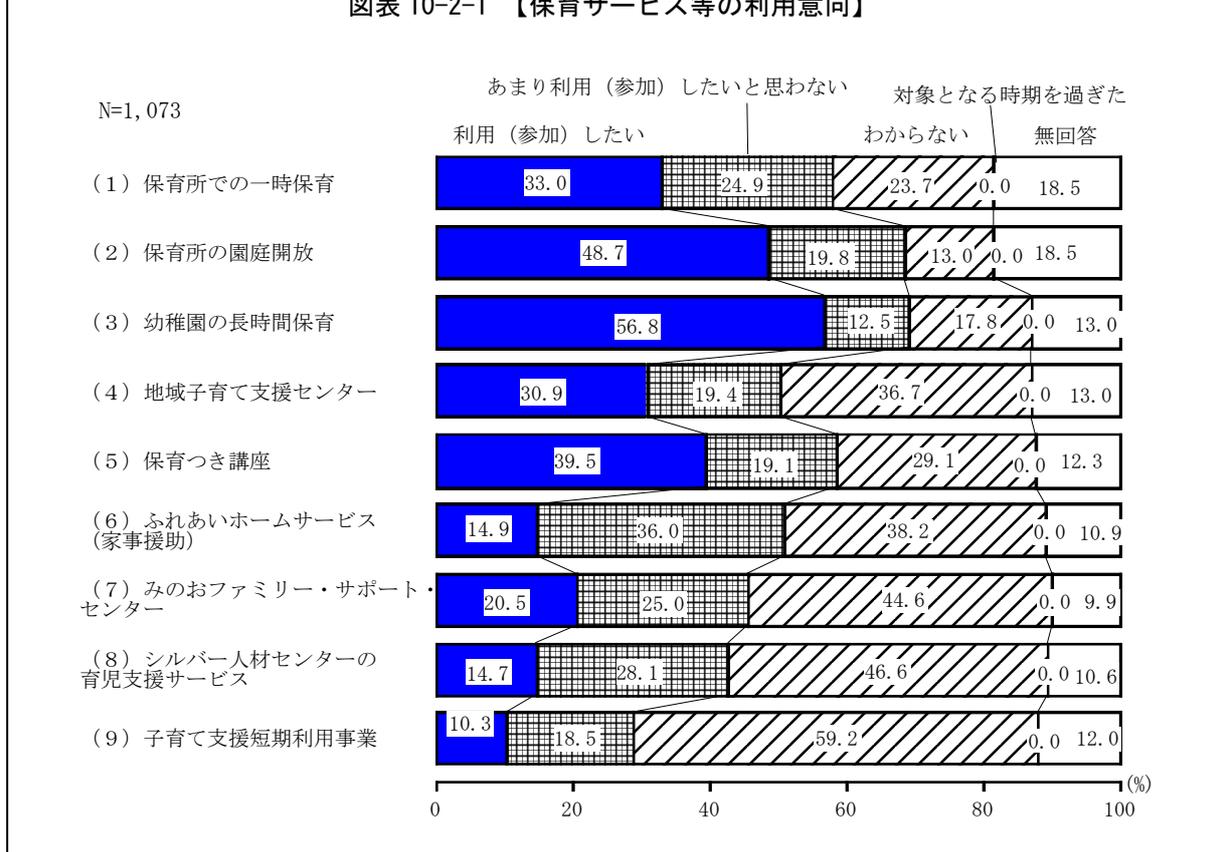
母子保健サービスの認知度・利用度をみると、「乳幼児健康診査」は8割以上の利用率となっている。認知率は高いものの利用率が比較的低いものは、「パパママ教室（ベビーケアなどの講習）」、「新生児訪問指導（生後28日まで）」、「離乳食講習会」などがあげられる（図表10-1-2）。

(2) 子育て支援サービスの利用意向

(ア) 保育サービス等

問33 次の子育てに関する機関や、サービスを知っていたり、これまでに利用したことはありますか。また、今後、利用したいと思いますか。それぞれあてはまるものを1つ選んで○をおつけください。

図表 10-2-1 【保育サービス等の利用意向】

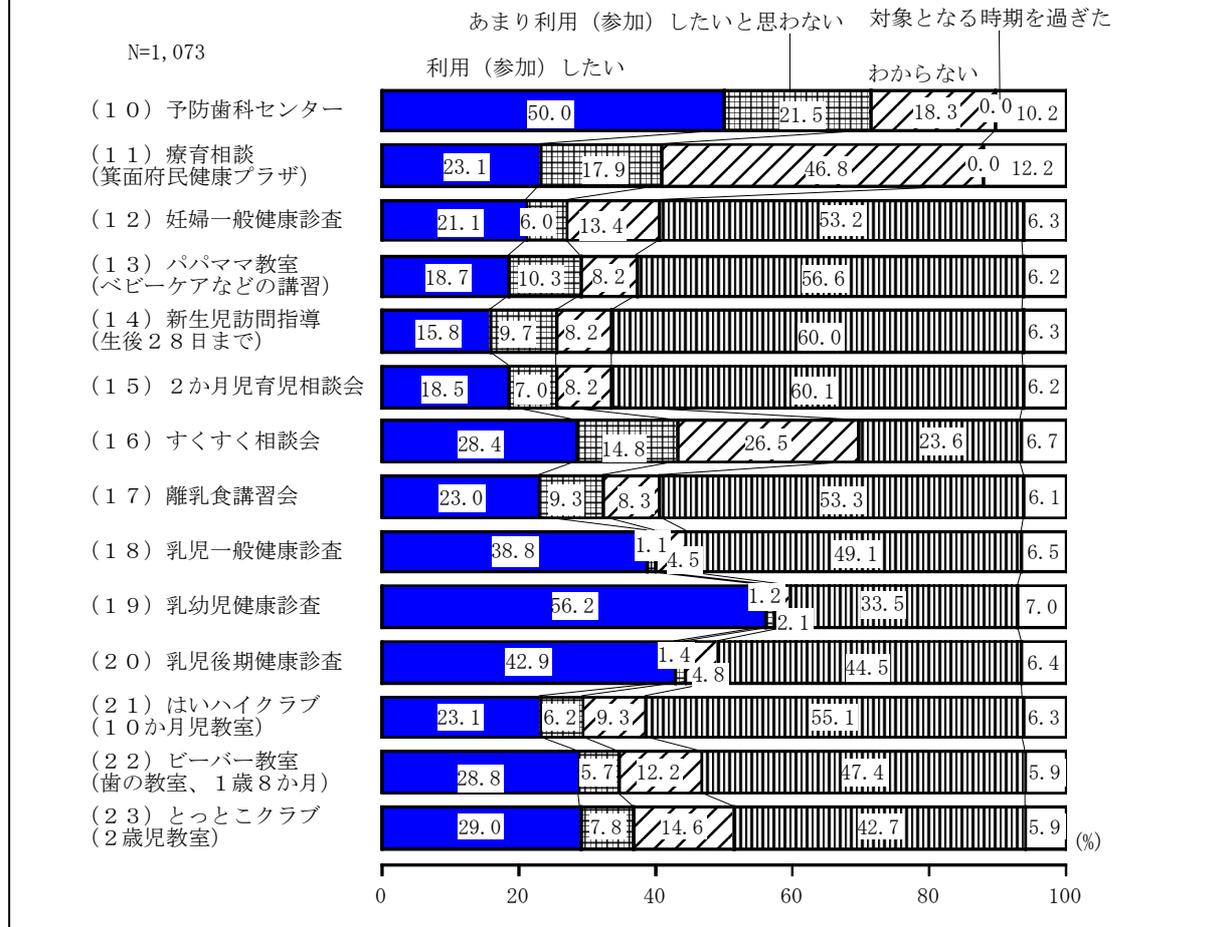


保育サービスの利用意向については、「幼稚園の長時間保育」が利用希望の最も高い項目となっている。加えて、「保育所の園庭開放」、「保育つき講座」なども利用意向率が高くなっている(図表 10-2-1)。

(イ) 母子保健サービス

問33 次の子育てに関する機関や、サービスを知っていたり、これまでに利用したことはありますか。また、今後、利用したいと思いますか。それぞれあてはまるものを1つ選んで○をおつけください。

図表 10-2-2 【母子保健サービスの利用意向】

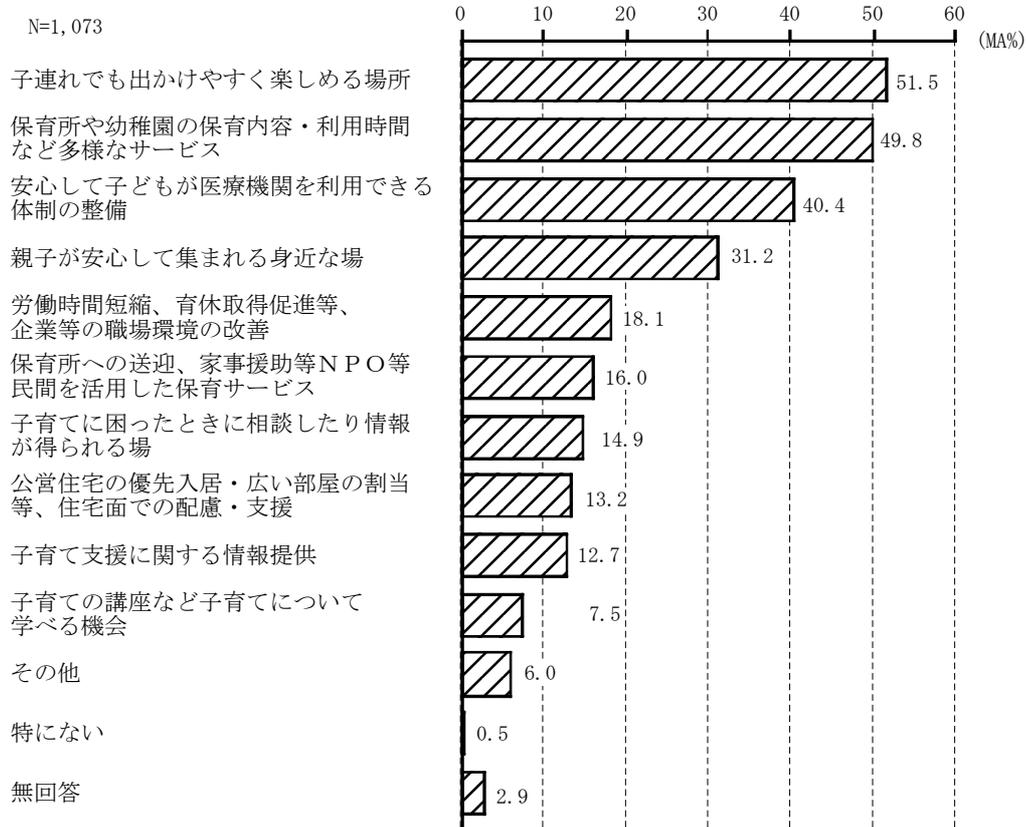


母子保育サービスの利用意向については、「乳幼児健康診査」への利用意向率が最も高くなっている。また「予防歯科センター」、「乳児後期健康診査」等の利用意向も他のサービスに比べ高い (図 10-2-2)。

(3) 子育てをしやすいするために充実すべきこと

問34 あなたが箕面市で子育てをしていく上で、どのようなものが充実すれば、子育てがしやすくなると思いますか。あてはまるものを3つまで選んで○をおつけください。

図表 10-3-1



子育てをしやすいするために充実すべきこととしては、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」(51.5%)が最も高くなっている。これに続いて、「保育所や幼稚園の保育内容・利用時間など多様なサービス」(49.8%)、「安心して子どもが医療機関を利用できる体制の整備」(40.4%)、「親子が安心して集まれる身近な場」(31.2%)が上位を占めている(図表 10-3-1)。